

# Gemini活用推進ツール

## AI Driven score

### ご紹介

吉積情報を通じてGoogle Workspaceをご契約いただいている企業様への限定特典



# “導入しただけ”の状態から、真の「全社活用」へ

生成AIツール（Gemini）は導入されたものの、その活用は一部の従業員に限定され、全社的な生産性向上に繋がっていないという課題ありませんか？

## Key Issues

- 一部の先進的な従業員のみが活用し、**大多数はあまり活用できていない**・そもそも社員の活用度合いを把握できていない
- 高額なライセンス費用に見合う**投資対効果 (ROI) が実感できていない**
- 従業員が自律的かつ継続的に**AIスキルを向上させる仕組みが不足している**



➡ [すぐにお申し込み方法を確認したい方は P.16をご確認ください](#)

# 生成AI活用が進まない原因

立場によって異なる「不満・不安」が存在し、組織的なAI活用を阻害しています。



## 経営層の「不」



高額なライセンス費用 の費用対効果が見えず不安。



AI活用が一部に偏り、組織の力になっていないことに不満。



## 管理職の「不」



部下にAI活用を促したいが、具体的なレクチャー ができない不安。



チーム内のスキル格差 が業務効率のバラつきを生み不満。



## 一般従業員の「不」



何から学び、どう業務に活かせば良いか分からず 不便。



初歩的な質問をしづらく、今の使い方で良いのか不安。



そもそも不要だと考えている可能性もある。

# 解決策 一人が自ら学びたくなる「仕掛け」を作る

行動心理学に基づいた4つのアプローチで、自然とAI（Gemini）活用が広がるポジティブなサイクルを創出。「AI Driven Score」が組織の自発的な活用を加速させます。

## ピアプレッシャー（同調効果）



多くの社員がAIを活用している状況が可視化されることで、「取り残されたくない」という自然な利用動機を引き出す。

## 社会的比較（健全な競争心）



上位者の存在がランキングで可視化されることで、「あの人のようになりたい」「もっとうまく活用したい」という健全な競争心と向上心が生まれる。

## モデリング（観察学習）



上位者の利用傾向を可視化し、「どう使ってるの?」という社内の自然な会話を誘発。チーム内での事例共有など、チームで学び合うコミュニケーションが活性化。

## バンドワゴン効果（主流化）



組織内でAI活用が「当たり前のトレンド」として可視化されることで、「自分もその波に乗りたい」と感じる人が増え、一部だけでなく全社的な定着へと繋がる。

## PRODUCT VISION

すべての従業員を、AI活用の探求者に変える。  
日々の業務の効率化を"ゲーム"として楽しみ、  
仲間と競い合いながらスキルを磨く。

一人ひとりのレベルアップが組織全体の力となり、  
かつてない生産性と創造性を生み出す未来を創造する。

# AI Driven Score とは？

従業員の「使ってみたい」を引き出し、組織の自発的なGemini定着を後押しするツールです



行動心理学とゲーム感覚の仕掛けで、全社の AI利用を自然に底上げ

ダッシュボードやランキングで、日々の利用状況や個人の成長を可視化

上位層の利用傾向から、社内の自然なコミュニケーションや事例共有を誘発

※ 既存のGoogle Workspaceインフラを活用するため、新たなセキュリティリスクなく導入可能です。

# AI Driven Score なら、 いつでも自分とみんなの利用状況が確認できる



※AI Driven Scoreは Chromeの拡張機能として提供しています。  
Chromeブラウザ上でワンクリックでいつでも AI Driven Scoreを起動できます。

# 4つの可視化機能で競争、分析、共有を促す

## 1. レベルダッシュボード

現在の自分の活動を客観的に把握し、日々の成長とモチベーションを可視化。

## 2. ランキング

他者の利用状況を可視化し、健全な競争を通じてエンゲージメントを向上。

## 3. フィードバック機能

利用傾向から、一人ひとりに合わせた改善点をAIが提示。利用ツールの幅を広げ、定着化を図る。

## 4. 分析

優秀層の利用傾向をAIが分析。自身のAI活用に役立つインサイトを提供。



# 1. ダッシュボード

自分自身の活動を客観的に把握し、  
日々の成長とモチベーションを可視化します。

## 総合ステータス

現在のレベル、称号、累計ポイント、ランキング順位を一目で確認

## ツール別利用状況

Gemini in Chat, Docs, Gmail等の利用頻度をグラフで直感的に把握

## ポイント獲得履歴

直近のポイント獲得履歴をタイムラインで表示



## 2. ランキング

他者の利用状況を可視化することで、  
自身の状況を客観的に理解する状況を作ります。

### 個人ランキング

獲得ポイント数の上位のユーザーを表示する。

### 日別・月別・過去180日によるフィルタリング

期間によってフィルタリングを行うことができる。



## 3. フィードバック機能

利用傾向から、一人ひとりに合わせた改善点をAIが提示。  
利用ツールの幅を広げ、定着化を図ります。

### 利用状況の分析と課題抽出

前日の利用データを分析し、個人の利用の偏りや課題を客観的に指摘

### 次のアクションを具体的に提示

次取るべき具体的な操作を個別にアドバイス

### 実務に直結する応用提案

日々の業務に直結するGeminiの活用方法を提示

あなたへのフィードバック

🔗 昨日の利用傾向とアドバイス

あなたの利用回数

11

全社平均

17

〇〇様、昨日のGemini利用状況についてです。

スライドでの利用が中心（3回）で、その他アプリでの利用は限定的でした。特に、Chat、Gmail、ドキュメント、スプレッドシート、ドライブといった、業務で頻繁に利用される可能性のあるツールでの利用が見られません。

スライドでの活用は評価できますが、Geminiの機能をより広範囲に活用することで、業務効率の向上が期待できます。例えば、Gmailでのメール作成支援や、ドキュメントでの文章校正などもお試しください。サイドパネルの活用も有効です。

レベル

ランク

FB

分析

## 4. 分析

優秀層の利用傾向をAIで分析し、  
自身のAI活用に役立つインサイトを得ます。

### トッランカー

優秀な利用者をピックアップする。

### ツール利用傾向

優秀な利用者のツールの利用傾向を把握する。

### 利用者の分析サマリー

優秀者の傾向をAIを使い、高知的に評価する。



# 全20段階の称号システムとポイント獲得ロジック

## ランクシステム詳細

🌟 称号一覧 (全20種)    💰 ポイントルール

Geminiとの対話の深さが、あなたの称号を決定します。「ビギナー」から始まり、最終的にはAIと完全に同化した「シンギュラリティ（特異点）」を目指してください。

| LV | 称号名          | 必要ポイント         | 状態・解説                   |
|----|--------------|----------------|-------------------------|
| 1  | Gemini ゲスト   | 0 - 500        | Geminiの世界を訪れたばかりの訪問者。   |
| 2  | Gemini ビギナー  | 501 - 1,500    | 基本的な操作を覚え、第一歩を踏み出した状態。  |
| 3  | Gemini スパーク  | 1,501 - 3,000  | AI活用の「閃き」を感じ始めた段階。      |
| 4  | Gemini ルーキー  | 3,001 - 5,000  | 失敗を恐れず、様々なプロンプトを試す新人。   |
| 5  | Gemini レギュラー | 5,001 - 8,000  | 日常業務にGeminiが定着した常連ユーザー。 |
| 6  | Gemini アシスト  | 8,001 - 12,000 | AIを助手として使いこなし、効率化を実現。   |

# Google Workspace環境で完結する、セキュアなシステム構成

既存のGoogleインフラ（Google Cloud）を活用するため、新たなセキュリティリスクを増やすことなく、シームレスに導入可能です。



基盤となるGoogle CloudはISO 27001、27017、27018等の認証を取得済みです。



お客様のデータがGoogleのAIモデルの学習に使用されることはありません。  
（Google Cloudの利用規約およびAI原則に準拠）



当社は、取得したデータを、本サービスの提供、維持、改善および  
新機能の開発の目的にのみ利用し、お客様の承諾なく第三者に提供することはありません。

# 導入によって期待される効果

従業員の自発的なスキル向上から「学び合う」組織文化の醸成まで、多岐にわたる効果が期待できます。

## 定量的効果

- **Geminiの全社アクティブユーザー率の向上**
- Gemini利用定着による**業務工数の削減**  
(資料作成、情報収集などの効率化)
- ランキング・利用傾向の可視化による、  
部署・チーム間での**ノウハウ共有機会の増加**

## 定性的効果

- AIに対する**心理的ハードルの低下**と、**自発的な学習意欲の向上**
- 「あの人に聞いてみよう」から始まる、**社内コミュニケーションの活性化**
- データに基づく「**隠れたAI人材の発掘**」  
と、**効果的な育成サポートの実現**



**個のレベルアップが組織全体の力となり、  
生産性と創造性を生み出す未来へ**

